館林文化史談会　令和４年度野外研修（深谷市訪問）報告書

実施日：令和４年１０月１５日（土）　　参加者：会員８名

報告者：丸山、沖田、金澤、加賀美

① 上敷免諏訪神社

鳥居をくぐると欅の大木があった。
注連縄が巻かれていたのでご神木のようだ。

神社の本殿です。本殿の前には「諏訪神社本殿再建記念碑」が建てられており、神社の由来が書かれていた。皿沼城を延徳３年（1491）築いた時に深谷上杉氏の重臣であった岡谷加賀守香丹が城の鎮守として岡谷氏の旧地の上野国岡谷（沼田市岡谷）から諏訪神社を勧請したとのこと。

本殿の横に「祠」が在った。年代は分からないが、祠の横には「武州榛澤郡上鋪免氏子中」と刻まれていた。
榛澤郡は現在の深谷市の大部分を占める地域で、この神社が皿沼城の天文 21 年（1552）廃城後も村の鎮守として存続したことがわかる。

② 皿沼城

唐沢川のすぐ脇にあり、写真で分かるように、皿沼城の経緯が書いてある説明板があるだけで、隣にある石碑は関係なかった。
現在は狭い敷地で、周りに比べれば小高いので、城の立地には良い位置だったようだ。
皿沼城は、岡谷加賀守香丹により、慶徳３年に築かれたとされる。
深谷城の北方守備として利根川を渡って攻めてくる軍に備えて築城された。天正１８年深谷城と共に滅びた。

③ 皎心寺

深谷上杉の家臣、皿沼城主、岡谷加賀守香丹は皿沼城を子の清英にゆずり、曲田城に隠居し、城内に僧自明和尚を招いて皎心寺を開いた。（曲田城の本堂と由緒を書いた説明板）

敷地内の「寒香園」という石碑は子孫の岡谷繁実の農場記念碑が東京から移設されたということである。

本堂の裏には岡谷家の墓がある。寺の境内、墓地、庭園などが非常にきれいに清掃管理されていた。

また石殿や地蔵菩薩などに隠れキリシタンの痕跡が墓地の何個所かで見られた

④ 清心寺

【清心寺山門】

この門を見た時、この寺の前に見た【皎心寺】とは打って変わり、立地が前に川（堀の様）が流れ、木々に囲まれ、ここから一気に高台になるという場所に造られていて、真に厳かな趣のあるお寺です。これからお寺の中にはどんな古のロマンが待って居るのか興味津々・・・

【平忠渡】の墓

この墓を見た時、最初に驚いたのが、敵の武将に対し何故このような立派な五輪塔を造ったのか？という事だった。五輪塔は今から 900 年も前の物で苔むし、どっしり感は何とも言えない古さを感じる。さらに墓域を立派な壁で囲むなど手厚く葬った心根に強く打たれる。
昔この辺りは荒涼とした場所と思われ、やや高台から広々とした景色を墓の中から眺めていたことであろう。
今も花が添えられていることに感慨深かった。

【なぜ、ここに千姫供養塔？】

千姫と言えば、徳川家康にとっては孫になり、とてもかわいい存在だった思う。大阪城から救出し、縁切寺で豊臣氏との縁を切らせてまで幸せを願った家康の気持ちを思い描きながら、何故ここに移されたのかを知り何か因縁めいたものを感じました。写真にはタイミングよく高崎線が通り、うまい具合に供養塔と電車のコラボが出来た。

【岡谷繁実夫婦の墓】

この墓を見てとても驚きました。皎心寺で見た岡谷家の墓と比べると何とも言えない感じがした。岡谷繁実については館林双書を読み、とても偉大な人物と思っていたのだが。墓域はある程度きれいになってはいたが、おそらく訪れる人も少なく寂しい思いをしていると感じた。会員の皆さんがお墓を観察しているので、夫婦は久しぶりの訪問者を喜んでくれただろうか？

⑤ 八幡神社

訪問した前の週、１０月８～１０日に例大祭が行われ、この日は午前に総代の皆さんが後片付けをされていた。このため、６人の総代の皆さんにお出迎え頂き、共に昼食を摂った。また、後から宮司様ご夫婦もお出でになり、神社の歴史等について歓談した。たいへん有意義かつ楽しい訪問になった。

八幡神社は戦国時代、深谷上杉氏の家臣「岡谷加賀守清英」が天文 19 年（1550）に深谷領の鎮守として山城国（京都府）石清水八幡宮を勧請したものである。当時は「清心寺」の鎮守として祀られた。その後、正徳年間（1711～1716）に当地（上野台村）に大久保氏により社地が寄進され、移転した。拝殿の賽銭箱には鳩の紋章が付けられ、本殿は鮮やかに塗り直されていた。

境内神社として１３社が祀られている。（写真は稲荷神社）
その一つに「天神社」（祭神　菅原道真公）があり、元亀３年３月に領主・秋元越中守長朝が上野台上野山元誉寺に勧請し、その後明治 40 年（1907）合祀されたものである。
　※頂いた上野台八幡縁起より

参道脇には八幡宮を創建した岡谷清英を祀る「祠」があった。
祠に向かって右側の柱には岡谷繁實がこの祠を祀ったこと、
左側には岡谷加賀守清英の功績を偲ぶ祠であることが
刻まれている。

右側　加賀守十二世〇
　　従五位岡谷繁實大人奉祀
左側　当八幡宮創祀
　　岡谷加賀守清英公偲祠

繁實の貴重な直接の足跡の１つである。

⑥ 秋元氏館址

秋元氏館址の碑と説明版は、昭和３９年に宅地として造成された秋元町の住宅街、中心のロータリーの中にある。説明版には、秋元氏館の言われが書いてある。石碑には秋元氏館跡と書いてある。秋元氏は、地域の方々にお茶の生産等で貢献し、慕われていたので、感謝の気持ちが、秋元町という名前に表れているようだ。

⑦ 元誉寺

元誉寺は秋元景朝が開基し、孫の秋元泰朝が深谷市上柴町の現在地に移し、増築再興した。
本堂の裏に景朝と長朝の供養塔（秋元氏の墓）があったが、今は総社に移されており、最近新しい供養塔が建立された。

⑧ 熊野大神社

【拝殿には秋元氏の家紋が】

戦国時代の天文年間（1532-1555）、深谷上杉氏の三宿老で皿沼城主岡谷加賀守清英（きよひで）がこの地方を領し、熊野大神社を深く崇拝し、社領を寄進し、同じく三宿老の一人、上野台領主秋元但馬守景朝と、その子越中守長朝は、当社が上野台の館の東北に位置したため、城の守りとして崇敬した。
この拝殿は大正 2 年の建築。その時、秋元氏との関係が深いことから拝殿の屋根や他にも多くの秋元氏家紋が付けられたか？

【秋元氏が創建した本殿】

現在の本殿は、上野台領主秋元但馬守景朝と子秋元越中守長朝が城の守りとして崇敬し、天正年間（1573-1592）に社殿を造営し寄進した。本殿は三間社、入母屋造、銅瓦葺、2 軒、桁行 2 間、総欅造。前面に千鳥破風を乗せ、さらに軒唐破風を出している。また、正面の桁に秋元家の家紋の彫刻が施されている。この建物は文政 2 年（1819 年）（現在の建物は当時の様式）と平成 11 年（1999 年）の大修理を経て、昭和 34 年（1959 年）11 月 3 日に深谷市指定文化財に指定された。

【境内にある東方熊野社碑】

「東方熊野社碑」には、日本武尊が蝦夷を平らげての帰途、群馬県碓井峠に差し掛かった時、弟橘援を偲ばれて、東南を望み、三嘆して「吾妻はや」と言われ、これから当国を東国と呼ぶ・・石碑は明治 29 年 12 月　篆額：秋元興朝
撰文：岡谷繁実　書：森東古幹
石碑は木々に囲まれてひっそりと立っており、注意深く見ないとわかりづらい。石碑のあることを示す看板があると見落とすことが無いのではと感じた。

【熊野大神社の参道は 300m】

社　号：熊野大神社（くまの だいじんじゃ）
御祭神：・伊邪那美命（いざなみのみこと）
　　・速玉男命（はやたまおのみこと）
　　・事解男命（ことさかのおのみこと）
創　建：延長 5 年(927 年)この地に枇杷の木を棟木として小祠を建て創建したと社記では伝える
指　定：深谷市指定有形文化財〔名称：熊野大神社本殿　昭和 34 年（1959）指定〕
ここの参道は何と 300mも有、　中仙道から一の鳥居をくぐって約 300mの参道に入ると両側に奉納された 39 基の石灯籠が続き　更に二の鳥居も過ぎてようやく社殿のある境内に着く。今でも参道が遊歩道として残っている。

編集後記

皎心寺でシャワーのような俄雨の歓迎を受けた以外は、終日、好天に恵まれ、三年越しに念願の深谷での野外研修を事故もなく終わることができた。報告内容にもあるが、皎心寺の墓域の清浄さと八幡神社での宮司様、総代様による大歓迎が特に印象に残っている。誠にありがたいことであった。
新たな発見や知識の吸収もあり、改めて実際に現地を訪れて学習することの楽しさを感じた。